

## ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種（HPV ワクチン）の対象の方々へのお知らせ

ヒトパピローマウイルス(Human papilloma virus: HPV)の一部のタイプ（ハイリスクグループ）は子宮けいがんの原因ウイルスです。この事実を発見したハウゼン博士は2008年にノーベル医学・生理学賞を授与しました。その後 HPV ワクチンが開発され、世界100か国以上で子宮けいがん予防のための公的な予防接種に使用されています。

HPV ワクチンは、日本でも平成21年から公費助成が始まり、平成25年4月に定期接種化されました。その後、残念ながらマスコミやインターネット上でセンセーショナルな副反応が相次いで報道され、開始2ヶ月後には接種勧奨を控える事態になりました。その後の研究や大規模調査（名古屋スタディーでは約3万人の方が対象）から、ワクチン接種とマスコミが取り上げた様々な症状には因果関係が無いことが示されてきています。

しかし日本では「HPV ワクチンは怖い」というイメージが接種対象者（女子中学生や高校生）及びその保護者に広まり、平成12年以降に生まれた女子の接種率は1%未満の状況が続いています。

HPV ワクチンは子宮けいがんの原因の50～70%を防ぎます。そこで、日本産科婦人科学会・日本小児科学会・日本医師会は、厚生労働省に対して「HPV ワクチンの積極的勧奨」を働きかけてきました。そして、令和2年10月9日、厚生労働省は「①対象者に HPV ワクチンが定期接種であることを周知し、②医療機関に対象者が接種のために受診した場合は、その有効性・安全性を説明して、希望者に接種すること」という内容の通達を出しました。

子宮けいがんは若い世代の女性に多いがんです。およそ70人に1人がこのがんになり、350人に1人がこのがんで亡くなっています。HPV ワクチンは子宮けいがんを予防できるワクチンです。横手市では令和2年12月に、接種対象の方々へ厚生労働省のリーフレットを添えて個別にお知らせをしております。

既に接種された方もいるかと思えます。未接種の方は、医療機関でその効果と副反応について十分に説明を聞き、友達や保護者の方々の感想も参考にさせていただいて、HPV ワクチンの接種を是非ご検討ください。

ご不明な点はかかりつけの医療機関や横手市健康推進課にご相談ください。

文責

横手市医師会 学校保健担当 磯部 京悦